



國産獎勵ヲ論ジテ學問ノ獨立ニ及ブ

内田, 銀藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 18(1):1-20

(Issue Date)

1915-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052308>



經濟學
商業學

國民經濟雜誌

第十八卷 第一號

(大正四年
一月一日發行)

論 說

國產獎勵ヲ論ジテ學問ノ獨立ニ及ブ

京都文科大學教授

文學博士 內 田 銀 藏

本編ハ大正三年十一月二十八日京都帝國大學々生集會所ニ於テ開カレタル讀史會大會ニテノ講演ノ速記ヲ少シク訂正増補シタルモノナリ。

戰爭ノ發生以來頗ル論議サレマシテ今日デモ尙ホ人々ノ注意ヲ惹イテ居リマスル問題ノ一ツハ國產獎勵トイフコトデアル。學問ノ獨立トイフコトモ亦ソレト相伴ヒマシテ屢々論議サレ人々ノ注意ヲ惹キマシタトコロノ問題デアリマス。

蓋シ或ル特定ノ時ニ當リマシテ或ル特別ナル問題ガ人々ノ注意ヲ惹キマストイフノニハ必ラズソノ原因ガナケレバナラスト存ジマス。戰爭ノ場合ニオキマ

シテ若シソレガ爲メニ一國ノ食料ノ缺乏ヲ告グルトイフヤウナ譯デアリマシタナラバ、食物ノ問題トイフモノガ特ニ喧マシク論議サルベキ譯デアリマス。若シモ戦争ノタメニ一國ニオキマシテノ重要ナル工業ノ原料品ノ輸入ガ杜絶イタシマシテ、爲メニソノ工業ヲ休マナケレバナライトイフヤウナ譯デアリマシタナラバ原料供給ノ問題トイフモノハ一般ノ人々ノ特別ナル注意ヲ惹クニ相違アリマセヌ。今回ノ戦争ニ當リマシテ、我が日本ノ場合如何ト申シマスルト、日本ハ近年デハ段々ト食料品ノ或ル物ノ供給ヲ外國ニ仰グトイフヤウナ状態ニナツテ來テ居リマスルケレドモ、國民ノ常食デアルトコロノ米ハ特別ノ不作ノ場合ハ例外トイタシマシテ、普通ノ作柄デアリマスレバ、今モ大體内地ノ生産デソノ需要ヲ充シテ居リマス。而シテ本年ノ如キハ在米ハ殊ニ潤澤デアツテ、相場モ近頃ニナイ下落デアルコノヤウナ場合デアリマスカラ、今ヤ米價調節問題トイフコトハ、多少論議サレテ居ルヤウデアリマスガ、戦争ノ影響トイタシマシテ、食料品供給問題トイフモノハ今回我邦デハ喧シク起ツテ居ラヌノデアリマス。次ギニ工業用ノ原料ハドウデアルカトイフト、今回ノ戦争ニ因リマシテ、工業ノ或ル種類ハ原料ノ輸入杜絶又

ハ其ノ輸入ノ困難トナリマシタ爲メニ、大ニ影響ヲ蒙リマシテ、不便不利ヲ感ジマシタコトガ少ナクナイ。故ニ今日我が一部ノ當業者、一部ノ識者ノ間ニオキマシテハ、原料供給問題トイフモノハ眞面目ニ考ヘラレテ居ルコト、存ジマス。近ク今月(十一月)二十五日ノ「官報」ニ掲載サレマシタコロノ「上海向本邦品販路擴張方」下題シマスルトコロノ在外公館報告ノ一節ニハ、今回ノ戰亂ハ我國當業者ヲシテ工業原料供給ノ方法ニ就キ最モ困難ヲ感ゼシメタリ、今回我國ニ於テ原料不足ヲ感ジタル諸品ハ主トシテ半成品的ノモノニシテ原始的ノ天產品ニ至リテハ必ズシモ之ニ苦マズ何レニモセヨ豊富ナル原料供給ノ途ヲ講ズルハ目下ノ急務ナリト申シテアリマス。併シナガラコレマデノ處一般ニハコノ原料供給問題トイフモノハ未ダ左程ノ注意ヲ惹イテ居ラスヤウデアリマス。獨逸ガ一方ノ戰爭ノ對手デアツテ而シテ我が日本モ亦獨逸ニ對シ宣戰イタシマシタトイフ成リ行キカラ早ク一般ノ注意ヲ惹キマシタノハ何カト云フト殊ニ多ク獨逸カラシテ輸入イタシ獨逸ニ供給ヲ仰イデ居リマシタコロノ藥品及一般化學工業品ノ輸入ノ杜絶又ハソノ輸入ノ困難トイフコトデアリマシテソレニツイテハ日本ノ内地ニオキマシテ

藥品及一般化學工業品ノ製造ヲ盛ニイタシ、外國ノ供給ヲ仰ガズシテ、自國ノ製品
デ充分需要ヲ充スコトノ必要ヲ痛快ニ感ジ、ソレヨリイタシマシテ一般ニ國產獎
勵ト申スコトガ盛ニ論議サレルヤウニナツタノデアルト存ジマス。實ハ原料ノ自
給自足トイフコトモ一部分、此ノ國產獎勵トイフコトノ中ニ包含サレテ居ルヤウ
ニモ思ハレル。

蓋シ、國產獎勵トイフ語ハ、種々ノ意味ニ解スルコトノ出來ル、言葉デアリマス。若
シ之ヲ頗ル廣イ意味即チ至ツテ包括的ノ意味ニ解スルトキハ、異リタル國々異リ
タル時代ニ於キマシテ様々ナル形ニ於テ國產獎勵トイフコトガアツタト申スコ
トガ出來ヤウト思ヒマス。我ガ徳川時代ニ於キマシテモ國產獎勵トイフコトハ少
クトモ三ツノ形ニ於テ現ハレテ居ツタト思ヒマス。即チ我ガ徳川時代ニ於テハ少
ナクトモ三ツノソレノ互ニ異ツタ意味ニオキマシテノ國產獎勵ノ思想及ソノ
事實ガアツタト思ヒマス。第一ハ各藩ガソレノソノ藩ヲ一ツハ國ト考ヘソノ藩
ノ特有物產ヲ盛ニ振興シヤウト務メタトイフ意味、デノ國產獎勵デアリマス。第二
ハ日本全體ヲ一ツノ國ト考ヘ而シテ外國ヨリノ輸入品ヲ防遏スル目的ヲ以テ、内

地、デ、ノ、生、産、ヲ、獎、勵、シ、タ、ト、イ、フ、意、味、ニ、オ、キ、マ、シ、テ、ノ、國、産、獎、勵、デ、ア、リ、マ、ス。第、三、ハ、外、國、ヘ、ノ、輸、出、品、ヲ、多、ク、ス、ル、ト、イ、フ、目、的、ヲ、以、テ、内、地、ニ、オ、キ、マ、シ、テ、ノ、生、産、ヲ、獎、勵、シ、タ、ト、イ、フ、意、味、デ、ノ、國、産、獎、勵、デ、ア、リ、マ、ス。先、ヅ、コ、ノ、三、通、リ、ノ、意、味、デ、ノ、國、産、獎、勵、ト、イ、フ、コ、ト、ガ、德、川、時、代、ニ、ア、ツ、タ、コ、ト、思、ハ、レ、ル、ノ、デ、ア、ル。

私ハ今第一ニ就キマシテハ暫クコレヲ説キマセヌ。第三ニ當リマスルモノト致シマシテハ德川時代ニ於テ支那向キノ水産物即チ支那人ノ專ラ需要致シマスルトコロノ煎海鼠^{イリコ}干鮑^{フカヒレ}鱧^{フカヒレ}等ノ生産ヲ獎勵イタシソノ輸出ヲ盛ニスルコトニ幕府ガ意ヲ用ヒマシタゴトナドガアリマス。ソレ等ノコトラバ一應申述べタイノデアリマスルケレドモコレモ時間ノ都合上略スルコトニ致シマセウソレデ三者ノ中專ラ第二ニ當ルモノニツイテ少シク申シテ見タイト思ヒマス。德川時代ニオキマシテ外國ヨリ輸入シタ貨物ハ種々アリマシタケレドモソノ中特ニ重要ナモノガ凡ソ三種類アツタト思ヒマス其ノ第一ハ藥品第二ハ織物及ソノ原料第三ハ砂糖デア[○]ル。先ヅ此ノ三種ノ貨物ハ當時特ニ重要ナル輸入品デアツタト申シテ宜シカラウト思フ。而シテ德川時代ノ中葉以降ニオキマシテハ幕府ハ此ノ三者共ニ日本

ニテソノ生産ノ發達ヲ計リ、以テ輸入ヲ防遏シ、又ハ減少シヤウトシタノデアリマス。即チ國產獎勵ヲ力メタノデアリマス。藥品ノ如キハ古來外國ヨリ多ク其ノ供給ヲ仰イテ居ツタモノデアル。昔ハ外國貿易ヲ無用トスル論ガ能ク行ハレテ居ツタコトデアリマスガ、ソノ外國貿易ヲ無用トスル論者ト雖、藥ダケハ人生ニ缺クベカラザルモノデアツテ、ソノ輸入ハ必要已ムヲ得ザルモノト認メテ居ツタ。兼好法師ノ「徒然草」ニ唐ノモノハナクトモ事カクマジト申シテ居リマスガ、ソレニモ「藥ノ外ハ」トイフ句ガ附ケ加ヘラレテアツテ藥ダケハ例外デアルトシタコトデアリマス。新井白石ノ「折たく柴の記」ニモ「藥材の外は他に、求むべき物もなし」ノ語ガアリマス。カヤウニ外國品ハ大抵無用デアルトシテモ、藥ダケハ例外デアルトシテ居ツタコトデアルガ、併シコノ藥ニツキマシテモ、内地生産ノ獎勵ハ八代將軍吉宗ノトキ以來試ミラレマシタ。即チ人參ノ栽培トイフヤウナコトニ大ニ意ヲ用ヒタノデアリマシテ、而シテ其ノ盡力ノ結果空シカラズ、藥用人參ガ内地デ出來ルヤウニナツタノデアル。砂糖ハマタ輸入品中頗ル重要ナルモノデアリマシタユエニ、其ノ輸入ヲ防遏シヤウトシテ内地ニ於テ甘蔗ノ栽培、砂糖ノ製造ヲ試ミ、多大ノ苦心ヲ拂ツタ

結果、漸ク成功イタシマシテ、日本デモ上等ナル純白ノ砂糖、即チ所謂和^ワ三盆^{サンパン}ガ出來ルヤウニナリ、當時之ニヨツテ或ル程度マデ輸入ヲ減ズルコトガ出來タノデアリマス。此等ハ何レモ顯著ナル事實デアリマスガ、最も多ク成功イタシマシテ、ソノ結果、殊ニ顯著デ、且永久デアツタトコロノモノハ、絹織物ノ生産ノ發達及其ノ原料タル、生絲ノ產出ノ増進デアリマシタ。

江戸時代ノ初メニ於キマシテハ精巧ナル絹織物ハ、多ク支那ヨリコレヲ輸入シテ居ツタコトデアリマス、ソノ中頃ニナリマシテモ、支那ヨリ織物ノ輸入ハナホ相應ニアツタノデアリマス。併シナガラ江戸時代ノ初期以來、コノ京都ニオキマシテ織物業ガ著シク進歩イタシ、舶來品ニ倣ツテ段々種々ナモノヲ織リ出シ、舶來品ニ劣ラヌモノヲ拵ヘルヤウニナリマシタ、否ナコレヲ凌駕スルモノガ、我が日本デ出來、單ニ外國品其ノ儘ノ模倣デハナク、日本獨特ノ意匠ヲ凝シタ立派ナモノガ多ク出來ルヤウニナツタ。又コノ京都ニオイテ發達イタシマシタトコロノ技術ガ各地ニ傳ハリマシテ、引續イテ諸國ニオキマシテモ同様ニ立派ナ絹織物ガ澤山製出サル、ヤウニナリマシテ、漸次絹織物ノ輸入ガ減退シ、内地ノ生産デ先ヅ大抵内地ノ

需要ヲ充タシ得ルヤウニナリ、ソレカラ更ニ一段ノ發展ガアツテ、遂ニ最近時ニ至リマシテハ、日本ノ絹織物ハ外國ヘモ頗ル盛ニ輸出セラル、ニ至ツタノデアリマス。ソレカラコノ絹織物ノ原料デアル所ノ生絲モ、近世ノ初メニオキマシテハ、主トシテ外國ヨリ輸入ノ白絲ヲ以テ内地ノ需要ヲ充シテ居リマシタ。當時日本ノ養蠶業ハ未ダ充分發達シテ居ラナカツタノデ、内地デ出來ルダケノ生絲デハ、國內ノ需要ヲナカ／＼充タスコトガ出來ズ、重モニ外國ヨリ輸入ノ生絲ヲ使ツタモノデアリマス。即チ生絲ハ江戸時代ノ初期ニ於テハ輸出品デハナク、實ニ輸入品ノ最モ重要ナモノデアツタ。然ルニ江戸時代ノ間、殊ニ其ノ中葉以後ニオイテ、段々我が内地デノ養蠶業ガ盛ニナリ、所謂和絲、即チ日本出來ノ生絲ガ澤山ニ產出サレルヤウニナツテ、遂ニ外國ヨリ白絲ノ輸入ヲ全然防遏シ、却テ今日ニテハ生絲ハ日本ノ極メテ重要ナル輸出品デアルトイフヤウニナツタノデアリマス。今日ニオキマシテハソノ發達ノ歴史ヲ研究セヌ人ハ、或ハ生絲モ昔カラ始終日本デ多ク產出シ來リ、嘗テ外國カラ其ノ輸入ヲ仰イタコトガナイト考ヘテ居ラル、カモ知レマセヌガ、凡ソ、五十年前幕末開港ノ頃ニ、オキマシテハ、昔シ外國生絲ノ輸入ハアツタトイフコ

トハ、尙ホ比較的ハツキリト人々ノ記憶ニ殘ツテ居ツタコト、思ハレマス。私ハ今朝、安政六年卽チ西曆千八百五十九年、今カラ凡ソ五十餘年以前ニ書カレタ京都ノ織屋、絲屋等ノ陳情書トデモイフベキモノヲ一覽イタシマシタガ、ソレニハ近頃外國貿易ガ盛ニ開ケルヤウニナツテ、外人ガ和絲ノ輸出ヲ望ミ、ソレガ爲メニ京都ノ織屋ハ原料缺乏ノ虞ガアル就テハコレヲ救フ方法ノ一トシテ久シク衰廢シテ居ルトコロノ外國産ノ生絲ノ輸入ヲ再興致シタイモノデアルトイフ趣意ガ書イテアリマス。ソレハ始メニ乍憚口上書ト題シ、冒頭ニ「近頃アメリカ、エギリス、フロシヤ、フラース右四ヶ國交易被爲免、昨午年より當春に至、追々長崎表に渡來仕、交易代り物として品々相望中、には和糸望候由にて長崎表并大阪より當地和糸買進み、直段高直に相成、當地西陣、織屋并糸道に携候者混窮仕」云々ト申シテアリマシテ、ソレカラ段々讀ンデ參リマス。ト左ノ如キ文言ガアル。

「然る處、多少とも外國に賣渡候へば、國々和糸荷數可相減道理相當候、然る處、唐白糸、黃糸、往古は多分持渡候處、追々渡來相減じ、別て近來欠年打續皆無同様に相成、歎ケ敷奉存候、其上和糸外國に賣渡候へば彌糸品無數に相成候に付、右唐白糸、

黄糸、往古之通澤山に持渡り候様仕度奉存候、左候へば和糸直段引上ゲ方も薄く、格別之差支も無御座哉に奉存候」

カヤウナ趣意ノ陳情書ノ草案ガ今ニ殘ツテ居ルノハ誠ニ興味ノアルコトデアリマス、コレハ開港ノ當時ニ於テ工業原料供給問題ヲ論ジターノ意見トモイフベキモノデアリマセウ、其ノ論旨ノ當否ハ暫ク措キ、是レニ由ツテ開港ノ當初ノ様子ヲ多少推察スルコトガ出來ルバカリデナク、マダ其ノ頃ハ往古外國產生絲ノ輸入ノ事蹟ガ頗ル人々ノ記憶ニ新タデアツタトイフコトヲモ、是レカラシテ知ルコトガ出來ルト思フ。

幕府ハ絹織物ノ國內產出、及生絲ノ内地生産ニ就キテモ之ヲ鼓舞シ、獎勵シタコトガアル。六代將軍家宣ガ、織物ハ外國ノ物ヲ用フルニモ及ブマイ、内地デ試ニ織ラシムベシト命ジ、京ノ奉行等其ノ命ヲ承ケテ織ラセテ進達シタモノガ、將軍病重クナツテカラ到着シタ、家宣ハ之ヲ聞テ悦ビ、新井白石ニモソレヲ示シタトイフコトハ、『折たく柴の記』ニ見エテ居ル、又家宣ノ薨ジタ翌年、即チ正徳三年五月ヲ以テ幕府ハ京都織殿ノ者共ニ和絲ヲ兼テ用フベキ旨ヲ告諭シ、且ツ蠶桑ニ宜シキ地ニ於

テハ養蠶業ノ發達ヲ計ルベキ旨ヲ令シタコトガアル。右ノ如ク幕府ハ絹織物ノ内地生産及其ノ原料タル生絲ノ國內產出ニ就キテモ、注意ヲ拂ツタコトデアリマス。ガ併シ自分ノ見ル所デハ、絹織物產出ノ進歩及養蠶業ノ發達ハ幕府ノ獎勵ノ結果ヨリモ、寧ロ民間ニ於ケル個人々々ノ努力ニ由レルコトガ多イヤウデアアル。人參ヤ砂糖ハ人爲ノ政策デ強テ其ノ内地生産ヲ企圖シタ痕跡ガ明カデアアルニ反シ、絹織物及養蠶ノ方ハ獎勵助長モ多少效果ガアツタラウガ、大體自然ノ發達トイツテ宜シイヤウニ思ハレル。彼ノ甘蔗ノ栽培、砂糖ノ製造ノ如キハ、外國ニ比シ天然ノ狀況ガソレ程良好デナイ處ニ於テ、兎モ角モ經營シ、或ル程度マデノ成功ヲ收メタ其ノ苦心、其ノ丹精ハ歎賞スベキモノデアツタガ、時勢ガ變化スルヤ、遺憾ナガラ忽チマタ衰フルニ至ツタコトデアアル。之ニ反シテ、絹織物及生絲ハ天然ノ狀況モ、マタ社會經濟上ノ事情モ、共ニ其ノ發達ニ都合ヨキモノデアツタカラ、引續イテ大ナル發展ヲ遂ゲ、其ノ結果ガ一層顯著デ、且ツ永久的ナルヲ得タコト、考ヘラレル。

ソレカラ茲ニ毛織物ノゴトヲ簡單ニ一言シテ置キマセウ。徳川時代ニオキマシテモ、毛氈デアルトカ、ソノ外或ル種類ノ毛織物トイフモノハ、矢張り西洋カラ輸入

シテ居ツタコトデアリマシテ而シテ徳川時代ノ中葉以後ニ至リマシテハ此等ノ
舶來品ニ對スル日本人ノ嗜好、日本人ノ欲求ガ段々増進シ、益々之ヲ珍重シ愛好ス
ルヤウニナツテ參ツタヤウデアアル、併シナガラ當時我ガ内地デハ未ダ此等ノ毛織
物が出來ナイ、ドウカ毛織物モ日本デ製作致シ、輸入ヲ防遏スルヤウニシタイモノ
ダトイフ考ヘデ幕府ハ寛政十二年、即チ西曆千八百十年、今ヲ距ルコト百十四年ノ昔
ニ於テ、既ニ日本ノ内地ニ製絨所ヲ起サウト企圖シタノデアリマス、ソノコトハ和
蘭ノ都ノデン・ハー・ム Den Haag ノ王國文書館ニ保存サレテ居ル日蘭關係文書ノ中
ニ明ニ見エテ居ルノデアアル、寛政十二年ニ幕府ハ和蘭ノ甲比丹ワルデナール Van
denaar ニ對シ、日本ニ於テ製絨所ヲ設立スルタメ熟練ナル技師三四人ヲ聘シタイ、併
セテコレニ要スル機械ト羊トヲモ送ツテ呉レヨ又猩々緋染ノ原料ノ作り方、竝ニ
猩々緋及其ノ他ノ染色術ニ熟達シタ一二ノ技師ヲモ遣シテ貰ヒタイト所望シ其
ノ渡海ノ旅費、及滯在中ノ生活費ハ幕府デ充分ニ支給スルトイフコトヲ申シ添ヘ
タ、次ニ享和二年(西曆一八〇二年)ニハ、技師等ヲ成ルベク來年渡來セシムベク、萬一
明年渡來セシメ難キ節ハ、製絨術ノ明細書、及ソレニ要スル機械、且又猩々緋ノ染色

術書ニ染料ヲ合セテ必ラズ違背ナク送ラシムルベシトイフコトヲ、長崎奉行カラ和蘭甲比丹ヘ命ジタノデアリマス、併シ乍ラコレハ和蘭人ノ方デハ甚ダ好マナカツタ、頗ル迷惑ニ思ツタ故ニ、最初其ノ話ヲ聞イタトキ、和蘭ノ甲比丹ハ、ソハ困難否殆ンド不可能ノ事ナラント思ハル、技師等ハ皆自由ノ公民ナレバ、強テ其ノ妻子等ヲ見捨テシムルコト能ハズナド、答ヘタ、西曆一八〇二年(享和二年)十一月十日附、甲比丹ワルデナールヨリ總督シーベルグ Siberg 等ヘ送ツタ書ニハ(上略)斯様なる注文は後來凡て何事も自分の手にて製作し當會社を必要となすの目的に外ならざる義と推察する故に候、實際日本人は既に種々の事物につきて開發され過たれば、後來つまり當會社の不利益と相成らんかと懸念に不堪候故に拙者は此度の事のみならず、今後學術製造、又は工藝等に關して明に當會社の不利益に歸着すべきものは、決して應諾せず、いつも體裁よき困難又は故障の理由を申立て、丁寧に謝絶するを、慥に上策と存候トイフ文言ガアル。要スルニ和蘭人ハ、カヤウナ注文ニ應ズルコトハ、結局自分達ノ不利益ニナル虞アリトシ幕府ノ希望ヲ滿タスノ誠意ガナカツタノデ、技師來朝ノコトハ實現セラレズ、幕府モ自然其ノ計畫ヲ中止シタモ

ノト見エマスガ、兎ニ角當時毛織物ニツイテモ唯今申シタヤウナ企圖ガアツタトイフコトハ、今日カラ回顧シテ餘程興味ガアルコトデアリマス、唯今引用致シマシタ蘭文ノ史料ハ、往年齋藤阿具氏ガ和蘭デ日蘭交通史料ヲ調査セラレタ折ニ之ヲ見出サレ、我ガ學界ニ紹介セラレタモノデアル。

以上ハ徳川時代ニオキマシテノ國產獎勵ノ事蹟ノ二三デアリマスガ、今日世間デ〇唱〇フル〇國產獎勵〇トイフコトハ、如何ナル意味ノモノデアルカトイフニ、同ジク國產獎勵ト申シテモ其ノ意義マタ之ヲ唱ヘル趣意等ト人々ニヨリ多少異ル所ガアルダラウト思ハレマス、併シ先ヅ一般普通ニ唱ヘラル、トコロヲ見ルト、二ツハ事柄ヲ主眼トシテ居ルヤウデアル、第一ニハ猥リニ舶來品ヲ崇拜セズ、寧ロ國產品ヲ愛用シ成ルベク內國品デ濟マス様ニスベシ、ソレガタメニハ內國品ニシテ優良ナルモノ、外國品ノ代用ニ供スベキモノ等ガアルコトヲ一般ニ能ク知レ渡ルヤウニスベシトイフコト、次ニ第二是レマデ内地デ出來ナカツタモノ、又ハ假令出來テモ充分ニヨク出來ナカツタモノ殊ニ藥品、化學工業品等ノ生産ヲ盛ニスベシトイフコト、コノ二ツノ點ヲ主眼トイタスヤウデアル、コレニツイテハ世間ニ種々ノ議論

ガアルヤウデアリマスガ私ハカヤウナ意味ニ於テノ國產獎勵論トイフモノハ矢張リ時代ノ要求ニ應ジ此ノ度ノ戰爭ヲ機會トシテ興ツタモノデ其ノ理由ナキニ非ズト思フノデアル蓋シ外國品崇拜ハ遠方ノ物珍ラシイ物ヲ好ムトイフ人情ニ基キ獨リ今日ノミナラズ昔ニモアツタコトデアル獨リ日本ノミナラズ英國ニ於テモ矢張リ外國品崇拜ノ事實アリトノコトデアリマス之ニ就イテハ今月十一月五日發行ノ『東洋經濟新報』ニ英國ニ於ケル舶來品ノ崇拜トイフ文ガアツテ大分面白イ話ガ書イテアリマスサレバ一概ニ外國品ヲ尊重スベキデハナイトイフコトヲ說テ人心ヲ警醒スル必要ハ今日丈ケニ限ツテ存在スル譯デハナイガ今日ニアリテハ特ニソノ必要ガ大ナルモノガアルノデアル又日本ノ產業ハ近年大ニ發達シタケレドモ未ダ歐米諸國ニ及バザルコト遠キモノガ多イ殊ニ藥品及一般ニ化學工業品ノ生産ノ如キハ今後大ニ發展セシムル必要ガアリ又其ノ望ガナイ譯デモアリマセヌカラ今日ヲ好イ機會トシテ人々ノ注意ヲソレニ向ケ其ノ發達ヲ助長スルトイフコトハ時宜ニ適シタコト、思フ併シ國產獎勵トイフコトヲ餘リ窮屈ニ解シテ外國ノ品ハ慥ニ優良又廉價デアツテモソレヲ使用セヌヤウニト勸告

シ、外國製品ハ其ノ特長アルニモ關セズ、全ク之ヲ防遏シテ内地品タケデ内地ノ市場ヲ獨占サセヤウトスルガ如キハ、餘リ極端ニ失シ、偏狹ノ見トイフベキデアリマス。若シサウイフヤウニナリマスルト、消費者ノ不便不利ハ勿論デアツテ、而シテ又結局生産業者ノタメニモナラヌコトデアル、コレガ爲メニ消費者ハ自分達ノ必要及嗜好ニ適合スルモノヲ求ムルニ當リ、其ノ選擇ノ範圍ガ狹クナツテ已ムヲ得ズ、自分ノ嗜好ニ充分適合セズ、自分ノ必要ヲ充分ニ充サナイ品デ先ヅ——我慢シナケレバナラヌヤウニナリ、特別ナル必要アルニ當リ、特長アル外國ノ精良品最モ進歩シタ外國ノ製品等ヲ使用シナイト、之ガ爲メニ思ヒノ外ノ不便ヤ損失ヲ招クトイフコトガナイトモ限ラヌ、而シテ生産業者ニアリテハ外國品ガ全ク防遏サレテ内地ニ來ナイトスレバ、ソレ丈ケ競争ガ少クナリ、刺戟ガ少クナルカラ、自然ト小成ニ安シジ改良進歩ヲ圖ル念ガ薄クナル虞レガアリマス、寧ロ特長ノアル外國ノ貨物ハ消費者ノ教育ノタメ、又生産業者ノ教育及獎勵ノタメニ、或ル程度マデ輸入ガアツテ、一方ニ於テハ消費者ノ選擇ニ便ニシ、一方ニ於テハ生産業者ノ刺戟ニ供スルニ、若カズト思考致シマス、且又單ニ外國品ヲ模倣シ外國品ト同ジ様ナモノヲ内

地デ生産シテ以テ外國品ノ輸入ヲ防遏スルトイフコトソレダケヲ專ラ目的トスベキデハナイト思フ、我ハマタ進ンデ大ニ特長アル產物ヲ作り出シテ盛ニ外國輸出ヲ圖ル覺悟ガナケレバナラヌ、前ニモ引用致シマシタ十一月二十五日ノ『官報』ニ出テ居ル在外公館報告上海向本邦品販路擴張方ノ一節ニ、若シ夫レ原料氣候、其他ノ關係ニ由リテ歐米品ト同一ノモノヲ製造スルコト不可能ナル場合ハ、日本品ハ日本品トシテ特長アル別種ノ商品ヲ以テ彼等ヲ驅逐スル覺悟ヲ要スベシトアルノハ頗ル我が意ヲ得タルモノデアル。

學問ノ獨立トイフ語、此ノ言葉モ場合々々ニヨツテ種々異リタル意味ニ使用セラル、コトデアリマス。或ル場合ニ於テハ國內ニ於ケル或ル勢力ヨリ學問ヲ獨立セシムルコトヲ指シテ學問ノ獨立ト稱スルコトデアル。即チ學問ヲ政權ノ外ニ超然タラシメ、政府ノ權力ヨリ學問ヲ獨立セシムルコトヲ學問ノ獨立トイフ場合ガアル。又思フニ宗教ノ勢力ヨリ學問ヲ獨立サスルコトモ學問ノ獨立ト云ヘヤウ。次ニハ又民衆ガ學者ノ忌憚ナキ獨立ノ言論ニ對シテ迫害ヲ加フルコトガアル。其ノ場合ニ民衆ノ壓迫カラ學問ヲ獨立セシムルトイフコト、是レモ學問ノ獨立トイツ

テ宜シカラウト思ヒマス。

併シ今日專ラ唱ヘラル、トコロノ學問ノ獨立ハ、ソレ等トハ異リテ、外國ニ對シテ一國ノ學問ヲ獨立サセルトイフコトデアルト思フ。此ノ一國ノ學問ヲ外國ニ對シテ獨立セシムルトイフコトニモ、細カク申セバ、其ノ中ニ更ニ種々ナル意味ガアリ得ルノデアルガ、ソレ等ノ細カイコトハ今ハ申シマスマイ。專ラ現在ノ問題ニ就イテ考ヘ、現今世上デ多ク唱ヘラル、學問ノ獨立トハ如何ナルコトヲ意味スル乎ヲ一層仔細ニ吟味シテ見マスルニ、是レハ主トシテ二ツノ點ニ重キヲ措イテ居ルモノ、如ク思ハレマス。一ツハ外國ノ大學及研究所等ニ依賴セズ外國留學等ヲ必要トセズ、自國內ニ於テ、スベテ學問上ノ研究ヲ充分ニ完全ニ仕遂グルコトノ出來ルヤウニスルコト、二ツニハ外國學者ノ糟粕ヲノミ嘗メズ、模倣ヲノミ事トセズ、自國內ニ於テ獨創的ノ研究ガ盛ニ起ルヤウニ致シ、日本ノ學問ニハ日本獨特ノ趣ガアリ、特別ノ長所ガアル様ニ致シタイトイフコト、即チコノ二ツノ點ガ今日多クノ人々ノ懷抱スル學問ノ獨立ノ考ヘニ於テ主眼ニナツテ居ルコト、推察致サレマス。扱テ此ノ學問ノ獨立ノ問題ニ就キテモ、世間ニ種々ナル見解ガアルヤウデア

ガ管見デハ、此ノ獨立トイフコト、孤立トイフコト、ヲ混同シ、獨立トイフコトヲ孤立ノ意味ニ誤解シテ、日本ノ學問ト外國ノ學問トノ間ニ墻壁ヲ設ケ、外國ト學問上ノ交際ヲ疎遠ニ致シ外國ノ學問ノ進歩ヲ蔑視シ、又ハ無視シ、井蛙ノ見ニ陷ルヤウナコトガアツテハ、甚ダ宜シクナイコトデアルト思フ。右ノ如キ弊ニ陷ラナイヤウニ注意致シ、而シテ前述ベタヤウナ二ツノ點ヲ主眼トスル學問獨立論ハ、適當ナル意味ニ於テノ國產獎勵論ト同ジク、マタ正ニ時代ノ要求ニ應ジ、此ノ度ノ戰爭ヲ好イ機會トシテ、興ツタモノデアツテ、充分ノ理由アルモノト考ヘマス。而シテカヤウナ意味デノ學問ノ獨立ヲ實現イタシマスルニハ、高等ナル教育機關ノ設備ヲ充實シ、今ヨリモ一層其ノ發達進歩ヲ計ルトイフコトガ誠ニ必要デアルト思フ。我ガ諸大學ハ此ノ須要ニ應ゼンガ爲メニ、更ニ大ニ期スル所ガナクテハナラヌ。又既ニ存在スル各種ノ研究所ノ規模ヲ一層大ニシ、其ノ發達ヲ計リ、竝ニ大學ニ連絡ヲ保チ、マタハ獨立ニ種々ナル研究所ヲ新ニ起スコトモ、甚ダ望マシイコトデアル。近頃人々ノ話頭ニ多ク上ルノハ、化學工業ノ研究所デアルガ、前述セル如キ學問獨立ノ見地ヨリスレバ、一ノ稍大規模ノ化學工業研究所ガ出來タトモ、ソレ丈ケデハ

甚ダ、物足ラヌコトデアル。研究所ハ他ノ方面ノ學問ニ就キテモ必要デアル。自然科學及其ノ應用ノ方面ノミデナク、精神科學ノ研究所、心理、教育、經濟等ノ研究所ノ如キモ、種々ナルモノヲ作り、ソレ／＼充分發達サセテ、立派ナ研究ガ續々ト日本デ出來上ルヤウニ致シタイモノデアル。他ノ一方ニ於テ彼ノ舶來ノ商品バカリヲ崇拜セズ、日本デ出來タ品物ヲ寧ロ愛用シ、内地製ノ貨物デモ優良ナモノハ充分ニ其ノ價值ヲ認ムルト同様ニ、舶來ノ學說バカリヲ一概ニ崇拜セズ、日本デノ研究ノ價值ヲモ適當ニ認メ、日本ニ於テ獨創ノ見解ノ發表ヲ成ルベク獎勵鼓舞スルトイフコト、是レガ又甚ダ必要ナコトデアリマシテ、精神上ノ產物ノ國內生産ノ獎勵ハ、蓋シ普通ノ意味デノ國產獎勵ト同等以上ニソノ必要ガアルコト、存ゼラレマス。マダ述ベタイコトモ御座リマスケレドモ先ヅコレダケニ致シテ置キマス。